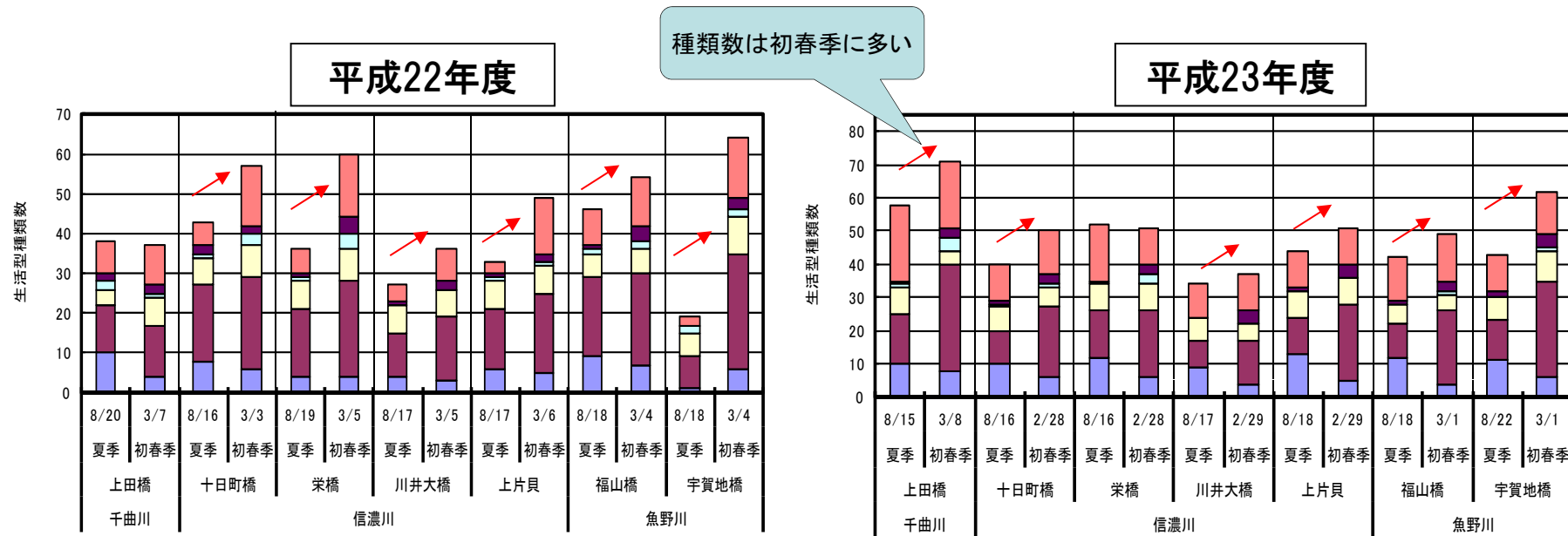


第23回協議会における意見について(1)

○平成24年度の底生動物調査の初春季調査は、平成23年度の初春季調査結果をみて実施の可否を決めるものとする。可否の判断は、事務局が平成23年度の初春季調査結果を学識委員に説明した後、各学識委員のご意見等を整理した上で全委員に回覧し、了承を得た上で行うこととする。

対応：平成23年度の調査結果の概要

- ・種類数が夏季より初春季が多いという傾向は、平成22年度の上田橋（瀬）、平成23年度の栄橋（瀬）を除き同様だった。この傾向は緩流部でも同様だった。



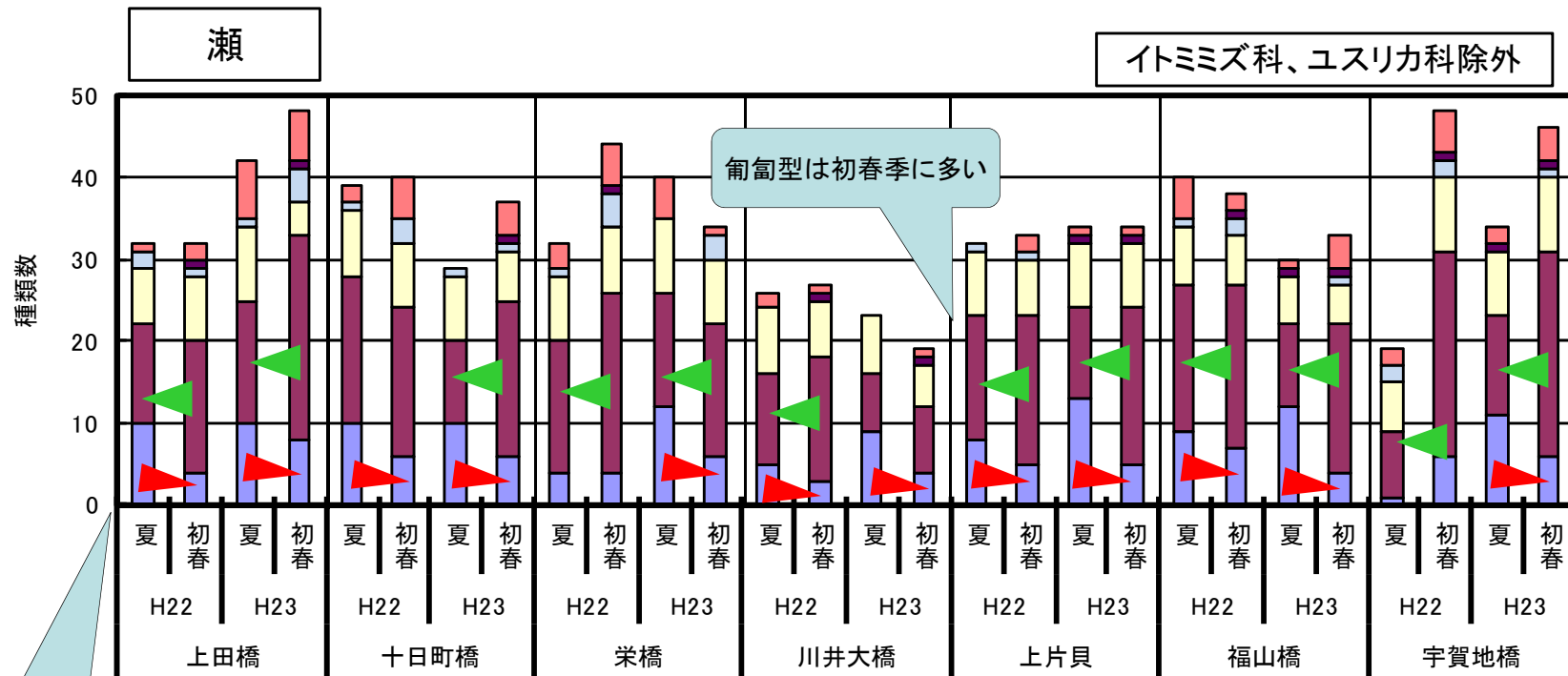
種類数の季別比較(瀬)

■ 遊泳 ■ 匍匐 □ 造網 □ 携巢 ■ 固着 ■ 掘潜

第23回協議会における意見について(1)

対応：平成23年度の調査結果の概要

- ・ 確認状況の変動が大きいユスリカ科とイトミミズ科を除外してデータの整理を行った。
- ・ 瀬においては、匍匐型の種類数は初春季に多くなり、夏季は少ない傾向にあった。逆に遊泳型は夏季に多く、初春季に少なくなる傾向がみられた。



種類数の季別・経年比較(年変動が大きい分類群を除外)

□遊泳 □匍匐 □造網 □携巢 ■固着 ■掘潜

第23回協議会における意見について(1)

対応：平成23年度の調査結果の概要

- ・瀬においては、シマトビケラ科、クダトビケラ科（造網型）やアカマダラカゲロウ、コカゲロウ科、ヒラタカゲロウ科（匍匐型）の種が多く、の地点で季節によらず優占していた。

優占種(個体数)の季別・経年比較(年変動が大きい分類群を除外)

調査地点	順位	H22				H23			
		夏季		初春季		夏季		初春季	
上田橋	1位	アカマダラカゲロウ	13%	アカマダラカゲロウ	12%	アカマダラカゲロウ	37%	ヨシノマダラカゲロウ	25%
	2位	ウルマーシマトビケラ	13%	エルモンヒラタカゲロウ	11%	シロタニガワカゲロウ	7%	アシマダラブユ属	18%
	3位	コガタシマトビケラ属	10%	ウスバガガンボ属	11%	ナミコガタシマトビケラ	6%	エルモンヒラタカゲロウ	13%
十日町橋	1位	ウルマーシマトビケラ	13%	アカマダラカゲロウ	18%	フタバコカゲロウ	22%	フタバコカゲロウ	37%
	2位	コガタシマトビケラ属	10%	クダトビケラ属	15%	Jコカゲロウ	22%	ヒメヒラタカゲロウ属	16%
	3位	ミツオミジカオフタバコカゲロウ	9%	ナカハラシマトビケラ	11%	ミツオミジカオフタバコカゲロウ	9%	アシマダラブユ属	15%
栄橋	1位	チラカゲロウ	24%	クダトビケラ属	21%	フタバコカゲロウ	34%	シロハラコカゲロウ	22%
	2位	コガタシマトビケラ属	18%	アカマダラカゲロウ	14%	Jコカゲロウ	12%	フタバコカゲロウ	20%
	3位	ウルマーシマトビケラ	11%	ウルマーシマトビケラ	13%	クダトビケラ属	10%	チラカゲロウ	15%
川井大橋	1位	チラカゲロウ	34%	ヒメヒラタカゲロウ属	40%	フタバコカゲロウ	51%	ヒメヒラタカゲロウ属	43%
	2位	ウルマーシマトビケラ	23%	ウルマーシマトビケラ	14%	ミツオミジカオフタバコカゲロウ	17%	フタバコカゲロウ	18%
	3位	ヒメヒラタカゲロウ属	15%	クダトビケラ属	9%	Jコカゲロウ	6%	ヒメフタオカゲロウ属	10%
上片貝	1位	コガタシマトビケラ属	37%	アカマダラカゲロウ	18%	ナカハラシマトビケラ	20%	シロハラコカゲロウ	24%
	2位	ウルマーシマトビケラ	10%	ウスバガガンボ属	14%	フタバコカゲロウ	19%	オオクママダラカゲロウ	15%
	3位	チラカゲロウ	9%	クダトビケラ属	13%	ウルマーシマトビケラ	16%	ヒメヒラタカゲロウ属	12%
福山橋	1位	チラカゲロウ	13%	トゲマダラカゲロウ	40%	シロハラコカゲロウ	14%	シロハラコカゲロウ	41%
	2位	アカマダラカゲロウ	11%	ウスバガガンボ属	9%	クシゲマダラカゲロウ	14%	トゲマダラカゲロウ	18%
	3位	クダトビケラ属	9%	エルモンヒラタカゲロウ	7%	フタバコカゲロウ	9%	オオクママダラカゲロウ	9%
宇賀地橋	1位	ヒゲナガカワトビケラ	63%	コガタシマトビケラ属	23%	ナミコガタシマトビケラ	14%	コウノマダラカゲロウ	16%
	2位	チラカゲロウ	13%	ウスバガガンボ属	16%	ウルマーシマトビケラ	11%	ウルマーシマトビケラ	16%
	3位	エルモンヒラタカゲロウ	4%	ナカハラシマトビケラ	11%	ギフシマトビケラ	10%	シロハラコカゲロウ	9%

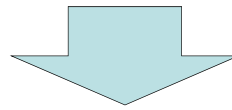
はシマトビケラ科、クダトビケラ科(造網型)

はアカマダラカゲロウ、コカゲロウ科、ヒラタカゲロウ科(匍匐型)

第23回協議会における意見について(1)

対応：調査結果のまとめ

- ・平成22年度、23年度に実施した夏季及び初春季の調査結果から、初春季と夏季の傾向は同様と考えられた。例えば、遊泳型の種類は夏季に多く初春季に少ない、匍匐型は初春季に多く夏季に少ないという季節による違いはあるものの、どちらかの季節で特定の種群が欠落するような顕著な傾向はみられなかった。
- ・上記の比較結果を基に、今後は夏季のデータで調査地点の底生動物相を大まかに把握することが可能であると考えられる。



初春季調査の実施について(案)

- ・平成24年度以降は、継続的に実施している夏季調査のみを実施

第23回協議会における意見について(2)

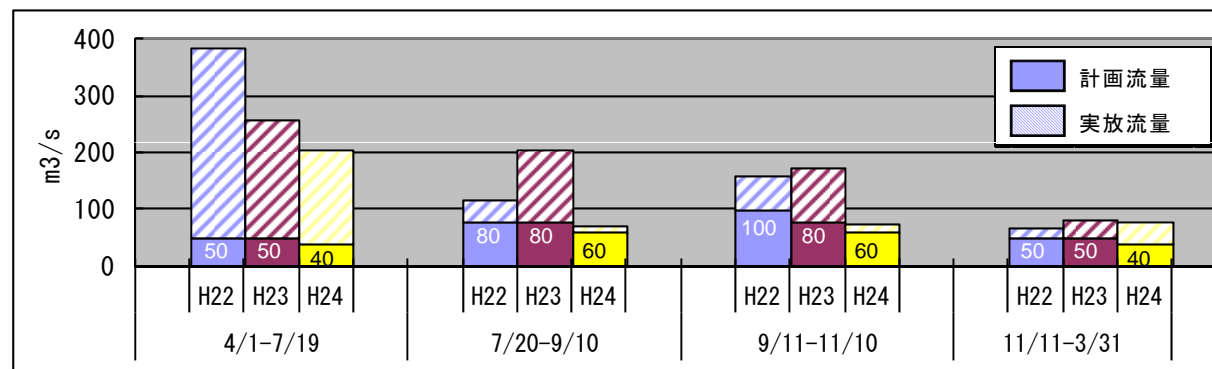
○各年の流況（ダム放流量）の評価方法についての素案を事務局で作成し、個別で学識委員にご相談させていただきながら事務局で検討を進め、最終的な評価方法案を次回の検証委員会に提示する。

対応：ダム放流量評価方法の素案の検討

- ・平成22年度から平成24年度までの宮中取水ダムの放流量（実流量）について、試験放流計画のパターン別に整理した。

宮中取水ダム試験放流（平成22年度～平成24年度の実放流量）

春季（4/1-7/19）の平均放流量は、各年度とも計画流量を上回った。
夏季（7/20-9/10）の平均放流量は、平成23年度が計画流量を上回り、その他は同程度だった。
秋季（9/11-11/10）の平均放流量は、平成22年度、平成23年度が計画流量を上回った。
冬季（11/11-3/31）の平均放流量は、各年度とも計画流量と同程度だった。



注) 平成22年度の4/1～6/9は試験放流を行っていないため、集計から除いている。また、平成24年度の11/11以降は12/31までのデータを集計しているため、対象期間を通じた値ではない。

- ・各項目の調査結果について、ダム放流量（実放流量）との関係を検討したものの、明確な結果は得られなかった。データを蓄積し、平成25年度の調査結果を踏まえ、評価方法の検討を行う。